

2023 年度事業計画

1. 調査研究の推進

(1) D-Call Net の研究（継続）

2022 年末までにドクターヘリ基地病院（全国 66 病院、56 機）のほぼ全て（63 病院、54 機）が D-Call Net を導入しており、2023 年度はドクターカー運用病院への D-Call Net 普及拡大を推進する。

新車搭載の車載機型（第 1 種）D-Call Net については、ステアリングコミティーにおいて交通弱者（歩行者、自転車乗員）を対象とした次世代 D-Call Net の要求仕様について調査研究を継続する。

既販車にも搭載可能な画像活用型（第 2 種）D-Call Net については、D-Call Net 研究会傘下に 2022 年度に設置した第 2 種 D-Call Net WG において研究開発を促進しており、第 2 種 D-Call Net 運営要領により 2023 年当初から開始することとしている協力基地病院・消防本部における試験運用の成果を踏まえ、2023 年度中に全国における本格運用の開始を目指す。

(2) HEM-Net シンポジウムの開催

昨年 12 月 16 日に開催した「HEM-Net ドクターヘリ全国展開達成記念シンポジウム」の成果を踏まえ、ドクターヘリの「質的向上」に資する課題を選び、HEM-Net シンポジウムを開催する。

(3) ドクターヘリ夜間運航に関する調査・研究（継続）

ドクターヘリの夜間運航については、昨年 4 月に調査研究委員会報告書を発表した、同年 6 月に開催されたドクターヘリ推進議員連盟総会において同報告書を説明したところ、「議員連盟としても本格的に取り組んでいく旨の決意」が表明された。また、昨年 12 月に開催した HEM-Net シンポジウムにおいては今後取り組むべき未解決の課題として位置付けられたところである。

そこで、HEM-Net としては今後もドクターヘリの夜間運航について調査研究を継続することとするが、主として、HEM-Net も委員である日本航空医療学会内に設置された委員会を舞台に調査研究を行うこととしたい。

(4) ドクターヘリの連携・補完手段としてのドクターカー、ドローン及び空飛ぶクルマの調査研究（新規）

HEM-Net は定款第 3 条に規定するように「主としてヘリコプターを利用した救急医療に関する事業を行う」ことを目的としている。しかし、近年、HEM-Net は、D-Call Net や夜間における救急医療の観点から「ドクターカー」に対して関心を高めるとともに、「ドローン」についてはドクターヘリとのコラボレーションを、「空飛ぶクルマ」についてはドクターデリバリーヘリ等の新たな医師搬送手段としての役割を調査研究してきたところである。

翻って考えてみるに、これらドクターカー、ドローン、空飛ぶクルマは言うならば「ドクターヘリの連携・補完手段」として位置付けることができるものであることから、今回、新たに標記の項目を起し、これらに関する調査研究を継続して行うこととしたい。

幸い、ドクターカーについては昨年 11 月に効率的なドクターカー活動のための情報交換と学術交流の場として「全国ドクターカー協議会」が組織されたところであり、また、ドローンについては「一般社団法人 日本ドローンコンソーシアム (JDC)」と、空飛ぶクルマについては「NEXTAA (「空飛ぶクルマ」による医療搬送システム検討コンソーシアム)」と既に連携しているところであり、今後、こうした場を通じ、調査研究を深めていくこととしたい。

それぞれの計画は以下のとおりである。

① ドローンとドクターヘリのコラボレーション (継続)

2022 年 12 月 5 日に改正航空法の施行により、ドローンが有人地帯における補助者なし目視外飛行「レベル 4」が実現したことを踏まえ、災害時や予期しない緊急時にドローンがドクターヘリ運行や、災害時の広域運用などを支える可能性を研究したい。

具体的には、現在でもドローンは血液製剤など医療物資の運搬を行う体制の構築が計画されているが、さらにドローンのマルチな機能を活用し、広域災害時などドクターヘリの目となり手足となるような支援体制の研究を進めたい。

特にドクターヘリ基地局とドローンのコラボレーションを、より実践的な実証実験を計画して災害緊急時の安全な着陸場所の確保など、さまざまな救命活動へのサポートの可能性を模索したい。

② 「空飛ぶ車クルマ」による医師搬送システム (継続)

「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム検討コンソーシアム (NEXTAA) の活動へは、「医療効果 WG」及び「運用体制 WG」にそれぞれ委員を派遣している。同コンソーシアムの取組み目標は、「2025 年の大阪万博における会場内での全域運用 (デモフライト、実証運航、医療待機)」の実現に向けて取組んでおり、このために組織の法人化を検討、促進中である。

導入予定の「空飛ぶクルマ」の型式証明の取得申請は、2022 年 11 月現在、2 社 (日

本 1、米国 1) から出されており、その審査概要は 2023 年度末頃かとの推察情報もある。

一方では、宮崎県延岡市での医療連携試験運用の計画が検討中との情報もあることから NEXTAA の 2023 年度の取組みに関しては、引き続き関心を持って協力をする。

③ 「全国ドクターカー協議会」との連携によるドクターカーの調査研究（新規）

D-Call Net によるドクターカーの効果的な運用を全国に普及させるため、「全国ドクターカー協議会」（2022 年 11 月 26 日設立。代表者：今 明秀 日本病院前救急診療医学会代表理事）と連携して調査研究を進めたい。また、夜間を対象としていないドクターヘリを補完する手段として、ドクターカーによる夜間運航についても当該協議会と連携して調査研究を進めたい。

2. 情報の発信

(1) HEM-Net プラザの発刊

「HEM-Net プラザ」は、今年度も引き続き、時局性の高いテーマを選んで問題提起ができるよう配慮しながら、年間 4 号の発刊を目途に発刊を続けていくことといたしたい。

当面、第 16 号として、「日本の救急医療が当面する重要課題とドクターヘリ」という大きなテーマを取り上げて、横田裕行先生（日本体育大学大学院保健医療学部教授・前日本救急医学会代表理事）と國松会長との対談を掲載し、HEM-Net の今後の在り方を考えてみたい。第 16 号の発刊は、2023 年 4 月を予定している。

(2) 広報宣伝活動等の展開

関係団体、医療関係者等と連携・協力して、ドクターヘリの質的向上、D-Call Net の普及・啓蒙に関する「研究会」、「セミナー」などを主催・共催し、またはそれに積極的に参加するとともに、新聞・機関誌等に寄稿するほか、メディアの取材にも対応していきたい。

3. ネットワークの拡大

(1) 賛助会員・寄付者の拡大

引き続き、賛助会員・寄付者の拡大に努める。

(2) 関係団体との連携の強化

ドクターヘリ推進議員連盟の総会に出席し、HEM-Net としての課題を報告するとともに当該課題の解決に向けて支援をいただくこととする。

日本航空医療学会の総会に出席し、幅広く情報を得るとともに必要に応じ発表し、また、HEM-Net が委員を務める当該学会内の委員会に出席し活動することとする。

日本航空医療学会、HEM-Net 等を構成員とするドクターヘリ連絡調整協議会（会長：猪口貞樹）及びその下部組織であるドクターヘリ連絡調整委員会（委員長：北村伸哉）にそれぞれ出席し、HEM-Net の活動を報告するとともに必要な調整を行うこととする。

ドクターカーについては HEM-Net も会員である全国ドクターカー協議会に、ドローンについては JDC のフォーラムに、空飛ぶクルマについては NEXTAA に、それぞれ出席し、情報を得るとともに情報を発信することとする。

4. 「伊藤良昌基金」の設置と運用

令和 4 年 5 月 29 日に逝去された篤志家・伊藤良昌氏から総額 2650 万円の遺贈寄附を受けたので、これを原資に「伊藤良昌基金」を設置し、別に定める「伊藤良昌基金設置・運用要綱」の定めるところに従い、HEM-Net 等の行う事業等のうち、HEM-Net 定例会において、特に救急医療の質の向上に資するものと認められた事業等に対して、事業費または助成金を交付する事業を開始することとする。

事業費または助成金の交付の対象となる事業等および交付金額については、随時、個別の案件ごとに、HEM-Net 定例会において決定する。

本事業は、令和 5 年 4 月 1 日から開始する。